

外国人に「やさしいにほんご」は



やさしい日本語で交流する参加者。豊田市小坂本町の豊田産業文化センターで

豊田でセミナー 伝わりやすい表現学ぶ

外国人に伝わりやすい「やさしいにほんご」を学ぶセミナーが7日、豊田市小坂本町の豊田産業文化センターで開かれた。外国人の来訪もある公共施設の職

員や大学生ら日本人18人が参加し、日本語が得意ではない外国人と円滑にコミュニケーションを取るための工夫を学んだ。市内で多くの外国人が辞

らしていることを受け、公益財団法人・市国際交流協会が、仕事や近所付き合いなどにやさしい日本語を取り入れてもらうと開催。一般向けに開催するのは初めて。

愛知淑徳大ダイバーシティ共生センターの鈴木崇夫助教を講師に、参加者たちは熟語をより平易な表現に言い換える練習をしたり、簡単な言葉をつないで自己紹介を作ったりした。鈴木助教は「やさしい日本語に正解はなく、人によって伝わりやすい言葉は違う。コミュニケーションを工夫して歩み寄っていくことが大切」と話した。

講義の後には、日本語を学習している外国人8人と交流する実践の時間があった。参加者らは伝わりやすい表現を試行錯誤しながら、和気あいあいと会話を楽しんでいた。

同市保見町の保見交流館で働き、仕事で言語の壁に当たることがあるという竹内麻里子さん(41)は「ひらがなを読める人が多いというのは驚いた。使いやすたい」と話した。

(堀百花)

2024年9月11日(水) 中日新聞 豊田市版 12面より
この記事は中日新聞社の承諾を得て掲載しています。